

東京工業大学百年記念館

TOKYO INSTITUTE OF TECHNOLOGY
THE CENTENNIAL HALL
NEWS 01 2007



ごあいさつ

相澤益男（館長・東京工業大学長）

東京工業大学は最先端の科学技術をリードする理工系総合大学へと進化を進める一方で、創設時より芸術・人文社会科学の分野における教育・研究にも力を注いで参りました。

大岡山の正門に位置する百年記念館では、1987年の開設時より、本学におけるこうした研究成果や史料、作品を中心とした資料収集とその公開展示を行うことを通して、大学と地域社会との接点となるべく活動を続けており、過去9回の特別展示・講演会においても大変な好評をいただいております。

この度は、本館のニュースレターを定期的に発行する運びとなり、ご案内申し上げますとともに、今後とも、新時代の先端を歩む本学の研究・教育の成果を体感していただける場として、本館へ足をお運びいただきますようお願い申し上げます。

刊行にむけて

亀井宏行（副館長・計算工学専攻教授）

百年記念館は、1981年東京工業大学が創立百年を迎えるにあたって計画された「東京工業大学創立百年記念事業」の一環として、東京工業大学に蓄積されている科学・技術の教育・研究に用いられた貴重な備品・文書や成果を体系的に整理して公開展示することを目的とする、科学・技術史の博物館として計画されました。しかしながら、学内に会議室が少ないなどの要求があり、展示室・収蔵庫からなる博物館と、会議室・レストランとを収容する建物へと変更を余儀なくされました。建物の設計は、篠原一男名誉教授（1953年建築学科卒業）に依頼され、1987年に竣工しました。

博物館としての資料収集・展示については、1984年4月に発足した百年記念館専門委員会展示部会（主査：道家達将教授）が対応し、展示計画を練りました。この委員会は、その後百年記念館展示部門専門員会に引き継がれ、資料の収集・保存、展示の業務を行っています。現在、博物館として使用できるスペースは、地階の特別展示室、一階の企画展示室、および3階ギャラリーです。展示部門専門委員会では、百年記念館を本来の趣旨どおり、大学博物館として機能させることが、資金を提供していただいた同窓生の皆様への義務と考え、活動してきました。

百年記念館一階は、大岡山キャンパスには学生のくつろげる場所が少ないことから、学生が自由に集まれる空間を提供するという趣旨で現在のような状況になっていますが、3点の芸術作品を展示し、博物館のロビーとしての雰囲気や少しでも醸し出せるよう努力しています。

中央の壁に掲げられている500号の大作は、「爽旦之学園」

と題する洋画で、1940年頃の東工大とその周辺の朝の風景を描いたもので、本館4階大会議室から、1999年に現在の場所に移されました。描いたのは、安井潔（雅号：和光）（1902年生）で、1939年12月から1949年7月まで、本学復興部に在職していた人物です。

右手にあるのは、岡本睦郎の「風景」（1992-93）という作品で、キャンパスと板にオイル・アクリル・砂で、トルコ・ギリシャ・アフリカ・南北アメリカ各地の風景を切り取った作品です。岡本睦郎は、1969年に本学金属工学科を卒業し、ニューヨークで創作活動を続けています。

左手奥にあるのは、石井勢津子の「アクエウスのつぶやき」（1995）というホログラム美術品です。石井勢津子は、1970年に本学応用物理学科を卒業後、パリに留学、本学辻内順平教授のもとでホログラフィ技術を学び、ホログラフィ芸術家として世界的に活躍しています。

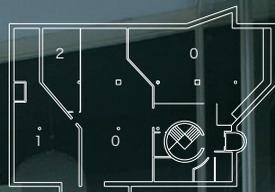
東京工業大学卒業生からは、浜田庄司、芹沢銈介、島岡達三の3人の人間国宝が出ています。百年記念館には、彼らの作品を含め多くの芸術作品も収蔵されています。理工系大学の博物館だからといって、見くびらないでください。面白い発見もきっとあります。

地階の特別展示室は、大学で研究開発された成果を展示する常設展示を行い、収蔵庫では資料の保管ならびに、可動状態にある世界で唯一のスターリングエンジンなどの貴重な大型機械類の展示を行ってきました。しかし、収蔵品も増えたことから、2004年には特別展示室に新たな14mの大型ガラスケースを設置し、2005年には収蔵庫を展示室に大改修する工事を行いました。

建物のみならず、活動も博物館としての存在をアピールすべく、2000年からは、特別のテーマの企画展を開催し、本学の成果を広く一般に公開する試みをはじめ、昨年度まで8回を数えるまでになりました。2007年度も、7月19日～7月28日にかけて、「進化するスーパーバイオワールド」展を開催しました。また、陶芸家として人間国宝の島岡達三の作品群を3期にわけて展示する企画も進めています。さらに、科学技術をわかりやすく一般の人々に伝える「サイエンス・カフェ」という催しも始めました。こうした博物館活動を行っていることを多くの人々に知っていただくために、このたびニュースレターを発行することになり、現在のところ年2回の発行の予定で、特別展や講演会・サイエンスカフェ等の年間スケジュール、現在の収蔵品・展示品や新規に収蔵されたものの紹介などを行っていくつもりです。東京工業大学の過去ばかりでなく、現在・未来をも含めた情報を発信する博物館として活動していきたいと思っていますので、皆様も是非足をお運びください。



1F 展示室（竣工時）



0 特別展示室

1 機械室

2 倉庫

B1F 特別展示室

来るべきサイエンス・パークの)の起点としての百年記念館

設計：篠原一男 (1987年)

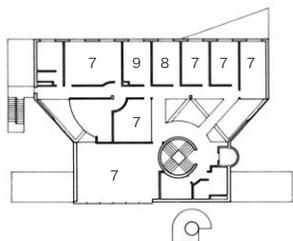
まだ大岡山駅が地下化される以前のことである。竣工間もない百年記念館を、東急線車両窓の移動する視点から見上げた子供が、ポピュラーなロボットヒーロー (ガンダム) の名を叫んだと週刊誌のグラビアコピーを飾った。屈曲したハーフシリンダーとそれを支える複合立体との接合の仕方が、冷たく無機質な幾何立体の集合に動きのある有機的な表情を与えていた。

計画段階から、この特異な外形をもった建物デザインのは是非を巡って、学内外で議論が沸騰していた。大学をシンボライズする新しいデザインへの期待と関心が多く寄せられる一方で、見慣れぬ形への不安の声も少なからず囁かれたという。たとえば、厳格な理工系国立大学のイメージに合致するのかどうか、あるいはあまりにも設計者の個人的文脈に閉じてはいないかと……。しかし、既成概念をもたない子供が瞬間的に掴んだ素朴な言葉が、大人たちのつくる重苦しい空気を払拭した。日々変貌する世界都市東京のエネルギーの源を、柔軟な子供の脳ミソが的確に捕獲したようである。この時点で、百年記念館は大学の、そしてこの街のシンボルになった。

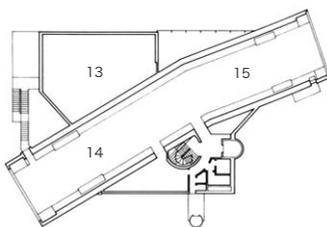
東京工業大学創立百年記念事業の一環として構想されたこの建物は、計画当初から現在ある正門脇、大学と街との接

触点に敷地が選定されたわけではなく、大学構内のいくつかの候補地を転々としたという。しかし、設計を担当された建築学科の篠原一男教授は、度重なる敷地の変更にもかかわらず、「木立の上に輝く金属質のシリンダリカル・サーフェス」をオリジナルイメージとして常に携えていた (蔵前工業会誌 1988年1月)。

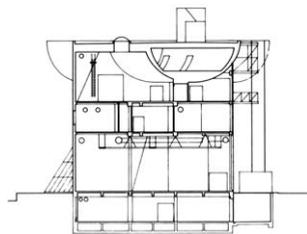
篠原一男教授は、1953年に建築学科を卒業後、1985年に定年退官されるまで、一貫して図学および建築学の教育・研究に携わる一方で、数多くの優れた建築作品と建築論を生み出す著名な建築家でもあった。建築家といっても、公共的な建物ではなく、ささやかな個人の住宅設計のなかに建築の本質を問いつけた稀有な建築家として知られていた。第二次大戦後から70年万博の終焉まで、ほとんどの建築家がモダニズムの合理主義的・機能主義的な側面に傾倒し、個人の空間と都市的な空間とを滑らかなグラデーションのなかに刻み続けていた時代に、文明社会で見失われたすまいの根源を求めて時代錯誤とも思われた日本の伝統と深層レベルで向き合い、また70年代以後、モダニズムの無効性が唱えられた時代では、定説ではなく独自の視点でモダニズムとの対話を始めた。一見、時代に背を向けたかのような篠原教授の姿勢は、建築デザイン界で<異端>とも<孤高>とも形容されたが、そこに一貫して流れる思想は、時代の潮流に惑わされること



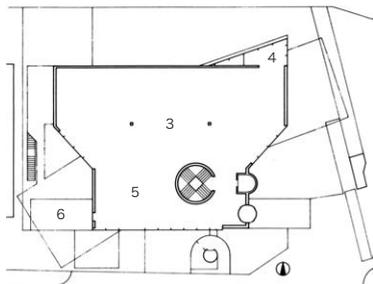
2階平面図



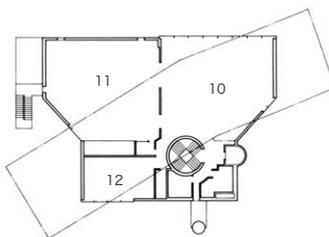
4階平面図



断面図



1階平面図



3階平面図 s=1/1000

- 3 展示室
- 4 休憩室
- 5 ロビー (喫茶)
- 6 テラス
- 7 会議室
- 8 事務室
- 9 資料室
- 10 ギャラリー
- 11 フェライト記念会議室
- 12 土光記念会議室
- 13 吹抜
- 14 レストラン
- 15 ラウンジ



3F ギャラリー（竣工時）

なく、物事の本質に迫る科学哲学者の如き態度であった。言い換えれば、〈時間〉に耐えうるデザインへの眼差しである。そして何よりも、篠原教授の設計した住宅は、その美しさによって多くの人々の心をとらえて離さなかった。また、〈時間〉に耐えうるデザインを背後から支えるのは、このように科学的合理の計測にのらない〈美〉であることを直観する一方で、現代の都市空間を活性させるファクターとしての〈カオス〉を、いち早く指摘してもいた。百年記念館は、こうした〈美〉と〈カオス〉という相反するテーマの併立を、都市空間的スケールで実践する壮大な試みでもあった。一步間違えば、グロテスクな深淵へ落ち込む危険性を抱えながらの緊張の連続であったと、篠原教授はその設計過程を後年振り返っていた。

しかし、そうした一抹の不安を払拭するように、最終的にできあがった建物は、日本国内だけでなく海外からも大きな反響を呼び、国際的な水準で20世紀を代表する建築の一つとして刻印されることになった。竣工後20年を経た現在でも、世界各国からこの建物を訪れる人が絶えないことが、その事実を証明している。

大学キャンパスおよびその中にある建物は、学生や教職員のファシリティに応えると同時に、さらに周辺地域、そして広く社会全般に貢献する必要がある。たとえば、欧米の主要大学では、キャンパス内の建物や広場を中心とした見所を、その歴史や伝統を踏まえたトークを交えて案内してくれる「キャンパスツアー」が、日に何回か企画されている。参加者は、入学希望者や新入生の場合もあるが、たいていは街を訪れた観光客であることが多い。つまり、大学キャンパスが街を代表する都市施設のひとつとして、その役割を引き受けている。

本学だけでなく、日本の大学では、このようなサーピスに対応しうるソフトとハードが未整備といえるが、少なくとも百年記念館は、この20年間そうした任務を全うしてきた。今、大学内でさまざまなキャンパス整備事業が構想されているが、それらがひとつひとつ実を結び、近い将来〈サイエンスパーク〉とも呼べるような、国内外に誇れる大学キャンパスとなることを願っている。百年記念館は、そうした来るべき東工大キャンパスの起点である。

百年記念館のコレクション一覧

百年記念館には、以下のようなコレクションが収蔵され、一部は展示されています。これらは、百年記念館創立以前から本学にあったものと、開館後に学内の物品を収蔵、あるいは学外から寄贈・寄託されたものがあり、その一部です。

(道家達将/百年記念館特任教授)

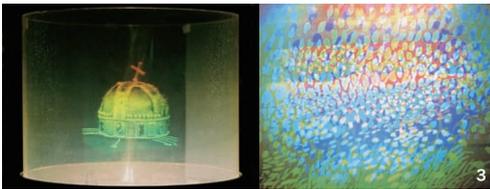
1. 平野耕輔陶磁器コレクション (ワグネルに学び東京高等工業学校の教授・国立陶磁器試験所長などを勤めた平野が所蔵し、東京工大に寄贈した陶芸品・ガラス製品・初期工業製品; 点火栓、磚子・蒸発皿等。ワグネル博士の吾妻焼・旭焼、板谷山山作マジョリカ作品、沼田一雅作の陶塑、松村八次郎作の陶器を初め、明治期から大正期にかけて主に平野の関与した研究・制作品と考えられる)



2. 東工大卒業の陶芸家・ガラス芸家・染色芸家ら (河井寛次郎、浜田庄司、各務敏三、芹澤銈介、島岡達三、加藤鈞、辻常陸、田山精一、村田浩等) の作品コレクション (中澤三知彦、小野田眞穂樹氏、加藤令吉氏及び各作家らの寄贈による)



3. ホログラフィー芸術作品コレクション (辻内順平名誉教授・ホログラフィー作家石井勢津子氏等の寄贈による)



4. 卒業生近藤茂制作絵画コレクション (手続き中)
5. 正木退蔵資料
6. 手島精一資料コレクション (手稿・写真・日記・書翰・胸像等)
7. 森田清・西巻正郎研究室製作真空管コレクション
8. 谷口吉郎建築資料コレクション
9. 篠原一男建築資料コレクション
10. 東工大使用計測器コレクション (本多式熱天秤等)
11. 東工大使用計算器コレクション

12. 東京工大収蔵、世界的技術遺産コレクション (史上最初期のイギリス製蒸気タービン発電機、アメリカの Rider Ericson Engine Co. 製 Hot Air Pumping Engine スターリングエンジン等)

13. 東京工大で使用された紡織機コレクション (Platt Brothers 社 1923 年製フラット・カード機 (梳綿機)、Platt Brothers 社製綿紡績設備; 10 種類 10 枚の大型布製絵図面、ミニチュアリング精紡機、高速テープ紡織機、豊和工業 N 型織機等)

14. 東京工大で開発された大型機械コレクション (谷口忠設計制作: 建築物の地震時の挙動を表現する振動台、中田孝が明石製作所と共同開発した全電気式フィードバック制御ホブ盤、斉藤進六開発: コールド アイソスタティック プレス装置、伊藤嘉平治制作: わが国最初期の鍛鉄製足踏旋盤)



14

足踏旋盤《明治 8(1875) 年、伊藤嘉平治作》日本機械学会「機会遺産」第 3 号、財団法人博物館明治村 (愛知県大山市) に寄託・展示中

15. 古賀逸策水晶時計研究コレクション

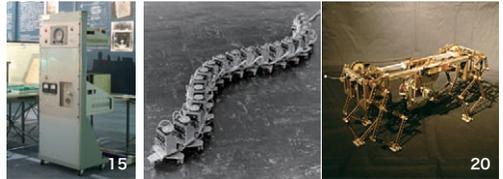
16. 古賀研究室戦時中レーダ研究資料

17. 東京工大フェライト研究コレクション

18. 和田小六資料

19. 和田小六学長を中心とする第二次世界大戦直後の東京工大改革資料

20. 東京工大ロボット研究コレクション



15

20

21. 東京工大設立時の建築物建設写真コレクション

22. 古橋家 (江戸時代の大阪の大工) 文書資料

23. 東工大百年史映画『理と精技: 東京協業大学の百年』資料フィルム

24. 東京高等工業学校学生ノート (仁木源吉他) コレクション

25. 神原周関連コレクション

26. 古賀逸策関連コレクション

27. 末松安晴・伊賀健一光通信研究 (資料)

28. 白川英樹導電性高分子研究資料 (含ノーベル化学賞受賞資料)



27



28

ACHIEVEMENTS

2000.03.21 - 25

特別展示 「古賀逸策先生生誕百年記念展・講演会 ～光り輝く水晶の業績～」 ①

2000.12.15

「島岡達三作品の寄贈展・記念講演会」 ②

2001.06.19 - 21

特別展示 「島岡達三陶芸作品特別展・記念講演会」 ③

2002.07.10 - 12

特別展示 「中田孝先生記念展示・講演会」 ④

2003.10.15 - 18

第4回特別展示・講演会

「神原周記念展示・講演会」～高分子新時代への道～ ⑤

2004.10.05 - 10

第5回特別展示・講演会

「G. ワグネルが開いた近代日本陶芸・先端セラミックスの美・用・学の世界」 ⑥

2004.12.14 - 18

第6回特別展示・講演会 「ナノ・ワールド展」 ⑦

2006.05.11 - 23

第7回特別展示・講演会

「ホログラフィー サイエンスからアートへ」 ⑧

2006.07.22 - 30

第8回特別展示・講演会

「先端ロボットの世界 ～社会に役立つロボットの創造～」 ⑨

2006.11.13 - 25

「谷口吉郎とイサム・ノグチ 建築と彫刻のコラボレーション 萬來舎写真展」(展示協力) ⑩

2007.03.26 - 05.25/ 06.05 - 08.03/ 08.27 - 10.26

常設展示ローテーション

「東工大陶磁器コレクション 島岡達三」 ⑪

2007.07.19 - 28

第9回特別展示・講演会

「進化するスーパーバイオワールド」 ⑫



05 MARCH

-25 (Fri) BF 常設展示ローテーション

東工大陶磁器コレクション 島岡達三

第一期「島岡陶器のテクスチャー」

31 (Thu) 18:00-20:00 サイエンス・カフェ Vol.01

「これであなたもトレジャーハンター!? -科学の力で遺跡を発見-」

3F フェライト会議室 定員 60 名*

06 JUNE

04 (Mon) 休館日

05 (Tue) -08.03 (Fry) BF 常設展示ローテーション

東工大陶磁器コレクション 島岡達三

第二期「釉薬と色彩のバリエーション」

22 (Fri) 18:00-20:00 サイエンス・カフェ Vol.02

「コンピュータグラフィックスの世界 -画面の向こうの天地創造-」

3F フェライト会議室 定員 60 名*

07 JULY

19 (Wed) -28 (Sat) 第9回特別展示・講演会

「進化するスーパー バイオ ワールド」**

23 (Mon) 14:00- バイオ体験デー

24 (Tue) 13:00- リレーレクチャーシリーズ

25 (Wed) 14:30- 掘越弘毅名誉教授 講演会

20 (Thu) 18:00-20:00 サイエンス・カフェ Vol.03

「言葉の科学でお茶しませんか?」

2F 第1会議室 定員 40 名*

08 AUGUST

27 (Mon) -10.26 (Fri) BF 常設展示ローテーション

東工大陶磁器コレクション 島岡達三

第三期「用と美の展開」

13 (Mon) -16 (Wed) 休館日

09 SEPTEMBER

10 OCTOBER

25 (Thu) 18:00-20:00 サイエンス・カフェ Vol.04

「インターネット大航海時代 ~インターネットを渡る海図を手に入れる~」

3F フェライト会議室 定員 60 名*

27 (Sat) -28 (Sun) 工大際

11 NOVEMBER

16 (Fri) 休館日

22 (Thu) 18:00-20:00 サイエンス・カフェ Vol.05

3F フェライト会議室 定員 60 名*

12 DECEMBER

20 (Thu) 18:00-20:00 サイエンス・カフェ Vol.06

3F フェライト会議室 定員 60 名*

27 (Thu) -01.05 (Sat) 休館日

*サイエンスカフェ 主催=21世紀COEプログラム「大規模知識資源の体系化と活用基盤研究」、東京工業大学百年記念館 申込=参加希望の方は「氏名」「年齢」「連絡先」を明記の上、メールまたはFAXにてお申し込み下さい。学生・生徒の方は、「学校名」「学年」をお教えください。

申込先 (COE21-LKR サイエンスカフェ事務局) =E-Mail: cafe@coe21-lkr.titech.ac.jp FAX:03-5734-3496

**「進化するスーパーバイオワールド」 主催=東京工業大学百年記念館 共催=大学院生命理工学研究科 後援=(社)日本化学会、(社)日本生化学会、(社)藏前工業会、目黒区教育委員会、大田区教育委員会

東京工業大学百年記念館

BF 常設展示 9:30 - 16:30 (Mon - Fry) 特別展示期間 10:00 - 17:00 (無休) 〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1 TEL 03-5734-3340 FAX 03-5734-3348 E-MAIL centshiryou@jim.titech.ac.jp URL <http://www.libra.titech.ac.jp/cent/>